



### ごあいさつ —文京区立森鷗外記念館再開にあたって—

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月2日から5月31日まで2ヶ月以上の臨時休館が続き、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。おかげさまで、6月1日よりコレクション展「父と母—鷗外のファミリー・ストーリー」を再開し、8月2日に無事に終了いたしました。そして8月8日より、開催延期になっておりました特別展「森家の歳時記—鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」を開幕することができました。これは、ご来館の方々をはじめ、日頃より当館をご支援くださっている皆様のおかげと、心から感謝を申し上げます。

ご来館に際しては、感染拡大を防ぐためのさまざまなお願いをしております。どうぞご理解いただきまして、引き続きご協力をお願い申し上げます。

2020年9月 文京区立森鷗外記念館

### 目次

巻頭コラム「鷗外・短篇小说の魅力」小泉浩一郎(東海大学名誉教授、森鷗外記念会会長)／展示会場から／開催中の展覧会 特別展「森家の歳時記—鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」／活動報告／名誉館長談／カフェ便り／ショップ便り／2020年度後期開館カレンダー／編集後記

# 鷗外・短篇小説の魅力

小泉浩一郎 (東海大学名誉教授、森鷗外記念会会長)

## 昼の思想と夜の思想

昼の思想と夜の思想とは違ふ。何か昼の中解決し兼ねた問題があつて、それを夜なかに旨く解決した積で、翌朝になつて考へて見ると、解決にも何にもなつてゐないことが折々ある。夜の思想には少し当にならぬ処がある。

鷗外の文壇再活躍時代の幕開けを告げる「平日」(明治四二・三)に続き、短篇第二作として発表された「追憶」(同・五)冒頭部分の右の叙述ほど、この期鷗外文学の多産性の核心に触れている文章は少ないように思われる。そこには又、「凡て世の中の物は変ずるといふ側から見れば、刹那々に變じて已まない。併し變じないといふ側から見れば、万古不易である。此頃囚はれた、放たれたといふ語が流行するが、一体小説はかういふものをかういふ風に書くべきであるといふのは、ひどく囚はれた思想ではあるまいか。僕は僕の夜の思想を以て、小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだといふ断案を下す。」と云う言葉もあるが、この決然とした「僕」の自己解放の言葉は、忽ち読み手の側にも伝わって読者の心もまた不思議な力で既成の小説概念から解放されてしまふ。

## 「追憶」と云う作品は、料亭新喜楽で「物質的時代の日本建築はこれだ」、「胡坐をかつて旨い物を食つて、芸者のする事を見て

あるには、最も適当な場所だ」と思わせる、広く明るく「なんにも目の邪魔になるものが無い」座敷に、突然「白髪を一本並べにして祖母子に結つた」「小さい姿びたお婆あさん」としての新喜楽の「お上」が現われ、女中たちとともに「豆打」を行なつて其儘立ち去つて往つた意外な事実への驚きを叙述しただけの作品とも言えるが、「昼の思想」から解放された「夜の思想」に属する最初の営みとして「追憶」を位置づけることができる。とすれば、この期鷗外に多くの優れた短篇小説を書くことが可能にした方法的自己確立を作品「追憶」に見ることが決してまちがっていないだらうと思われる。

## 「普請中」の射程

「追憶」に次いで、この期鷗外の短篇小説の多産性の核心に触れたものとして作品「普請中」(明治四三・六)を挙げることは比較的容易であらう。ともに過した青春の記憶を忘れ難く、二十年の時を隔ててやってきた「プリユネットの女」に対して「こは日本だ」「略」日本はまだ普請中だ」とくり返す主人公渡辺参事官をめぐつては作家三島由紀夫に「半ば絶望しながら建設に携はつてゐた知識人の像は(略)絶望しつつ建設とは無縁に生きてゐる知識人の像とちがつて、はるかに小説的鑑賞に堪へるものである」(「鷗外の短篇小説」昭和三一・二)。

# 展示会場から

所蔵資料から、鷗外の邸宅・観潮楼(現・当館)について紹介します。

## 自紀材料

[200119 ~ 200121]

巻頭に森家祖先の名と逝去の年月日を列記した上で、鷗外が生まれた文久2年から明治40年までの履歴が編年で記され、3冊に綴じられています。幼少期から大学卒業の年まで、そして鷗外の日記の欠けた部分を補う記録として貴重な資料です。成立時期は明らかではありませんが、同41年11月1日、12月29日の「鷗外日記」にそれぞれ「自紀資料を整理す」「家乗の資料を整理す」と記されており、関連がうかがえます。

『自紀材料』には、森家や鷗外の転居についても書かれています。現在、文京区立森鷗外記念館が建つ千駄木21番地(現・千駄木1丁目)については以下のように記されました。

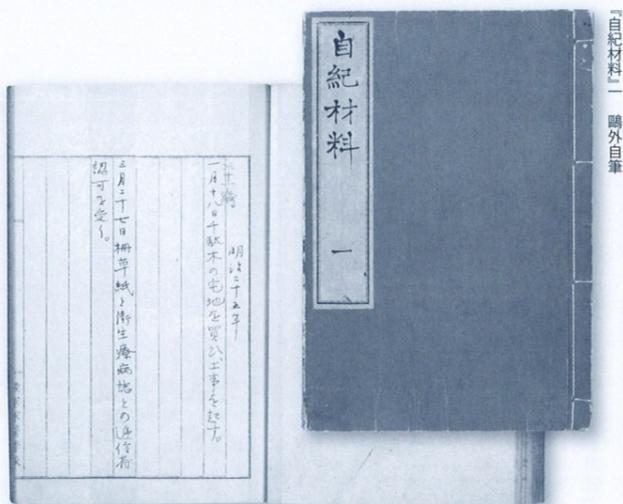
明治25年1月18日「千駄木の宅地を買ひ、工事を起す」

同年6月27日「千駄木の宅地を買ひ広む」

同26年3月11日「千駄木の宅を落す」

鷗外の小説『細木香以』(大正6年)や鷗外の末弟・潤三郎の著書『鷗外森林太郎』(丸井書店昭和17年)によると、「千駄木の宅地」は鷗外の父・静男が見付けたそうです。年を重ねた静男(天保6(1835)~明治29(1896)年、生年は諸説あり)は、千住で営んでいた医業を辞め、長男の鷗外と同居しようと考え、家を探していました。そして、団子坂上から三軒目、板敷きの小家が見晴らしの良いことに目を付け、鷗外と相談の上、購入しました。この小家には、三間に台所がついており、内一間は茶室でした。静男は千住の医院を併設した「大きな家」を営み、妻・峰子、義母・清子と越してきました。鷗外は明治25年1月末に千駄木町57番地(現・向丘2丁目)から転居し、戸主となりました。

やがて鷗外の客が増えて家が手狭になったため、土地を買い広げ、2階建てを新築しました。これが観潮楼です。設計はすべて峰子の好みに任せられ、1階には洋室や茶室を含めて五間、らせん状の階段で2階に上ると、手すり付きの縁側がついた12畳の広間でした。観潮楼は、その後時々増改築がおこなわれました。



『自紀材料』— 明治25年1月の項

「文芸」森鷗外読本」という批評が既にあるが、「プリユネットの女」をめぐる主人公渡辺ひいては作者鷗外の隠された本音は、それまで終始渡辺の視線に沿って一瞬も離れたことのない語りや視点が突然女の寂しい心理に倚り添う語りや全能的視点に座を譲る作品結末部の次の叙述に見事に集約されていると言ふことができるであらう。

女が突然「あなた少しも妬んで下さらないのね」と云つた。チエントラアルテアアテルがはねて、プリユウル石階の上の料理屋の卓に、丁度こんな風に向き合つて据わつてゐて、おこつたり、中直りをしたりした昔の事を、意味のない話をしてゐながらも、女は、想ひ浮べずにはゐられなかつたのである。女は笑談のやうに言はうと心に思つたのが、囚らずも真面目に声に出たので、悔しい、やうな心持がした。

渡辺は据わつた儘に、シヤンパニエの杯を盛花より高く上げて、はつきりした声で云つた。

“Kosinski soll leben!”

凝り固まつたやうな微笑を顔に見せて、黙つてシヤンパニエの杯を上げた女の手は、人には知れぬ程頭つてゐた。

また八時半頃であつた。灯火の海のやうな銀座通を横切つて、エエルに深く面を包んだ女を載せた、一輛の寂しい車が芝の方へ駆けて行つた。(傍点、稿者)

しかし、ここで私が改めて注目したいのは、恐ろしいほどよく見える鷗外の現実洞察力についてである。「半ば絶望しながら」という三島の言葉に関わつて、具体的に指

## 観潮楼模型

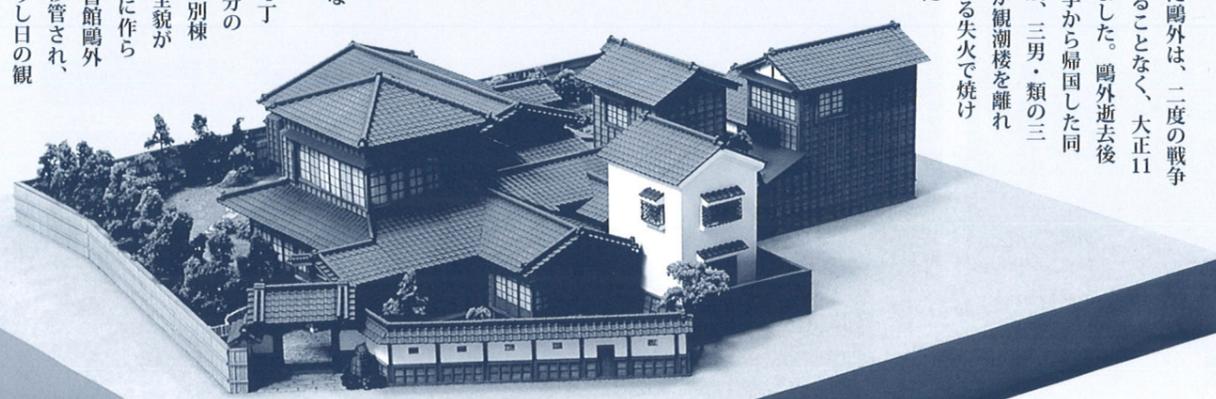
[100207]

明治25年1月末から千駄木町21番地に住み始めた鷗外は、二度の戦争と地方への赴任を経験したものの一度も居を変えることなく、大正11年7月に逝去するまでの30年間、観潮楼に暮らしました。鷗外逝去後は長男・於菟が観潮楼の新たな主となり、欧州留学から帰国した同13年から母屋に住み、鷗外の妻・志げと次女・杏奴、三男・類の三人は敷地内の別棟に住みました。同15年頃、於菟が観潮楼を離れたあと借家となった母屋は、昭和12年に借家人による失火で焼けてしまいます。さらに同20年の戦災により、残つた家屋も焼失してしまいました。

それから30年経つた頃、志げや於菟も逝去し、観潮楼の様子を記憶している人が減つていく中、その記憶を風化させないという思いから、当館の前身にあたる文京区立鷗外記念本郷図書館が主導して模型の製作が計画されました。その手始めとして、昭和50年10月から翌月までの1ヶ月間、鷗外の長女・茉莉、杏奴、類、於菟の妻・富貴と、観潮楼近隣住人1名を対象に、4回にわたる聞き取り調査が行われ、観潮楼復元図面が製作されました。茉莉によると、復元図面は杏奴や類が「明瞭した記憶を持つやうになつた」鷗外逝去前後の間取りで製作され、二人が「殆ど正確といへる程度に記憶してゐて、義姉(富貴も傍から補つた)そうです(茉莉「薔薇くひ姫」)。

聞き取り調査は屋内だけでなく、庭の草木の種類や石の位置にまで及び、ここでも杏奴と類の詳細な記憶が生かされました。

その後、平成3年に文京ふるさと歴史館(本郷4丁目)が開館するのを契機とし、復元図面を元に50分の1スケールで観潮楼模型が製作されました。母屋や別棟だけでなく、土蔵や馬小屋、庭園を含む観潮楼の全貌が再現されており、飾り窓や井戸など細部まで精巧に作られています。模型は、平成18年に文京区立本郷図書館鷗外記念室の開室に伴い、文京ふるさと歴史館から移管され、現在は当館展示室で皆様をお迎えしています。在りし日の観潮楼に、思いを馳せてみてください。



特別展

「森家の歳時記」

「森家の歳時記」

開催中！



本展のための観潮楼描き下ろしイラストと《鷗外胸像》がお出迎え

新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館に伴い、特別展「森家の歳時記」鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らしは会期を変更して開催しています。

本展は、鷗外の日記や書簡、鷗外の子どもたち（長男・於菟、長女・茉莉、次女・杏奴、三男・類）の随筆をたよりに、観潮楼に暮らした鷗外と家族が親しんだ年中行事や公私に慌ただしい鷗外のある一年、そして鷗外が作品に描いた季節表現を、三部構成で紹介しています。

丸窓から観潮楼を覗いたようなデザインをあしらった本展の展覧会図録も好評発売中です。出品資料の図版や解説、関連年譜と共に、本展への理解をより一層深めるため、左記の通り論考やコラムを収録した充実の内容です。

巻頭論考

「水色の夜明け、楽しい昼、そして金色の夜」

須田喜代次氏（夫妻女子大学教授）

コラム①

「鷗外とその家族をとりまく年中行事と行楽」

鈴木章生氏（目白大学教授）

コラム②

「鷗外日記を読むこと——鷗外と家族の日常」

村上祐紀氏（拓殖大学准教授）

コラム③

「お佐代さんのひなまつり——森鷗外「安井夫人」より」

大塚美保氏（聖心女子大学教授）

なお、本展図録をご購入の方に、図録の表紙と同じ紙で作ったメッセージカードを差し上げています（なくなり次第終了）。当館にご来館いただくことが難しい場合には、通信販売も承っております。詳しくはお問い合わせください。



図録購入特典としてメッセージカードをプレゼント！

第一章は「森家の年中行事」と題して、正月、避暑、菊人形、クリスマスなど、森家にちなんだ年中行事を展覧しています。鷗外が題字を書き、茉莉や杏奴、茉莉の友人たちが寄せ書きした「森家かるた会寄せ書き」（世田谷文学館蔵）/10月7日までの期間限定展示。それ以外には複製展示や茉莉直筆原稿「ドッキリチャンネル」（世田谷文学館蔵）/10月31日～11月29日の期間限定展示。それ以外は複製展示など、一部の資料は期間限定の展示となっております。なお、杏奴旧蔵「奈良木彫雛人形」（公益財団法人日本近代文学館蔵）は展示を終了しています。展示期間の詳細は、当館HPをご確認ください。

今年はお出を控えることが多く、また多くの行事が中止や延期となり、季節を肌身で感じる機会が少ないかもしれません。しかし、言葉から季節を楽しむこともできると思います。鷗外と子どもたちが綴った季節と時々の暮らしを、是非会場でご覧ください。

会期 ● 2020年 8月8日(土) — 11月29日(日)  
 【会期中の休館日】 8月25日(火)、9月23日(水)、10月27日(火)、11月24日(火)  
 会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室1、2  
 開館時間 ● 10時～18時（最終入館は17時30分）  
 観覧料 ● 一般500円（20名以上の団体…400円）  
 ※中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料  
 ※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット押印入、友の会会員証ご提示で2割引  
 ※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。  
 監修 ● 須田喜代次夫妻女子大学教授、森鷗外記念会常任理事  
 協力 ● 公益財団法人日本近代文学館、世田谷文学館、台東区立下町風俗資料館、文京ふるさと歴史館「五十音題」  
 ● 本展関連事業の実施については、決まり次第当館HPでお知らせいたします。  
 ● 一部の資料について、資料保護等のため期間限定展示としています。詳細は当館HPをご確認ください。

活動報告

臨時休館中の当館庭園では、鷗外生前からある大イチョウや、鷗外が詩歌に詠んだ沙羅の木（ナツツバキ）など、鷗外にゆかりのある様々な草木が、例年と変わらず生き生きとした姿を見せてくれていました。不要不急の外出自粛が叫ばれる中、今年には季節の移り変わりを感じることはなかなか難しくなったかもしれませぬ。当館庭園に訪れた春、そして初夏を写真で紹介いたします。これらの写真の一部は、当館インスタグラム (@morigaikenkan) でも発信しました。



4月27日 オオムラサキ（ツツジ）が見頃になりました。



4月24日 イチョウに可愛らしい葉が芽吹いてきました。



5月8日 強い日差しにイチョウの葉が光っています。



5月7日 藪下通り側の入り口からは、東京スカイツリー®がはっきり見えます。



5月7日 シャリンバイが咲きました。



5月1日 庭園内壁にある『沙羅の木』詩碑にも草花が反射しています。



6月3日 アジサイが綺麗に色づきました。



5月25日 沙羅の木の蕾が大きくなってきました。



5月21日 梅雨が近づいてアジサイのガクが色づいてきました。



5月11日 沙羅の木の蕾が少し膨らんできました。



6月8日 鷗外が「褐色の根府川石に白き花はたと落ちたり」と詠んだように、沙羅の木の花がポトリと落ちました。



6月5日 ついに沙羅の木が咲きました。



6月3日 沙羅の木の開花も間近です。



6月3日 ビヨウヤナギが咲きました。



第二章「大正二年の鷗外」



第一展示室



第三章「鷗外作品に見る春夏秋冬」



第一章「森家の年中行事」

# カミュの『ペスト』を久しぶりに読む

加賀乙彦

本年2月末、3月2日からの臨時休館が決まった折、当館名誉館長・加賀乙彦氏は「こんなときだからこそ本を読みなさい。読書のチャンスだよ」と、記念館スタンプを穩やかに励ましてくれました。そして、カミュの『ペスト』（1947年）を例に、「困難はこれから始まるのだから、落ち着いて過ごさなくっちゃ」と続けられました。

今回、いま再注目されているカミュの『ペスト』を加賀氏に再読していただきました。

この記録・小説・奇異な事件がおこったのは一九四〇年、アルジェリアのオランという町においてであった。

四月十六日の朝、医師ベルナル・リウーは診察室から出かけようとして一匹の死んだ鼠につまずき、門番の老人に片づけるように命合した。フランス人は自分の意志をまげない、つまり口げんかになり、鼠の数がふえるのみであった。そして新聞記者・神父・老門番・医師などが口論しあっているうち、鼠の死骸は六〇〇〇、八〇〇〇と数が増え、門番の老人は死んでしまった。また、鼠駆除の車が騒々しい音をたてて住居の前を通りすぎた。

こういう騒ぎのかたわら、ペストの歴史を調べたり、自分の小説「異邦人」を紹介したり、カミュの筆は自由自在であった。

六月も終わろうとしていた。変わった人物として銃で猫をうつ老人が現れた。そして銃声におびえた猫が大部分殺されていくので

あった。夏になったが海に入るのは禁止された。ホテルのすべての部屋は満員とされていた。今までの生活において町の人々は自由を手に入っていたが、満員の人々は狭い空間だけを自分の自由にするときめられてしまった。そう、自由のうち町の人々に許されたのは、狭い自宅という空間だけであった。

八月のおわりとなった時期、暑さが始まった。太陽は市民たちをあらゆる街角に追いまわし、そして万一立ち止りでもすると、たちまち襲いかかるのであった。

海にむかって町の門が作られてあった。門を守る憲兵は武器の使用を余儀なくされた。暑さのせい、いやな気配はつよくなった。新聞によれば町から外に出るのは禁止となった。官の車が市中を巡回していた……。

私がこの小説を読んだのは、一九五七年より六〇年にかけてフランスに留学した時のこと、一九五八年、私が二十九歳で在仏していた時のことである。私はフランスの北部の精神科病院で医師として働いていた。カミュが北方へ行く国道で事故にあい、死んだという新聞記事を読んで、びっくりしたのをよく覚えている。

日本では臨床医として働くのは一日仕事なのに、フランスでは午前中だけ働く人が多い。私は医師として労働し、午後になると日本にいるときの「死刑囚の有罪、無罪の無限」という論文の完成を目指して文章を書いていた。そこに飛び込んだのがカミュ

の事故死のニュースであった。私は友人の医師にテレビを見せてもらい、フランスの有名な小説家の死の報道を何度も見たことではあった。そこで気がついたのは、私がカミュに対する関心に夢中であったのに、医師として働いている友人たちは、カミュなどには無関心であったことだ。これは、私が文学を読むのに、サルトルの『嘔吐』の中の登場人物の真似をして、ABC順に小説を読んでいたの、つまりカミュの『ペスト』を読んでいなかったからである。



## カフェ便り

特別展「森家の歳時記―鷗外と子どもたち」が綴った時々の暮らし」期間中、モリキネカフェでは上生菓子にドリンクが付いた「歳時記セット」を提供しています。

ところで私はカミュの諸著作を次々に読みながら、何か物足りない気持ちにもなった。アルジェリアのオランという町の物語を題材としてペストの世界をえらびながら、その結構がいかに小さいのだ。主人公に若い医師の日常生活をえらびながら、悪魔的な人物像がうまく描かれていない。この描写の欠落が十分に描けていないと思う。一九四〇年のできごとを読んでいくと、ペストの蔓延というその当時には目新しい出来事であったのが、今では古びたものに見えてくる。アフリカの小さな町の出来事が、全世界の人々を苦しめている新型コロナウィルスの感染にくらべると、カミュのペストの町は実に小さく田舎っぽく感じられる。

カミュは、文章力は一流かも知れないが、作品の視野が狭いのだ。このあと北アフリカの諸国との戦争がおこって、独立戦争の時代が来るのだし、フランスはドゴールという政治家の時代になる。墓場の死体、暑熱に苦しむ患者、警官の仕事ぶり、町の外への散歩厳禁令。北アフリカの植民地の争奪……少年たちの苦しみ。汽車一杯に運ば



「歳時記セット」 800円



## ショッピング便り

森鷗外記念館では、2012年に開館以来、2019年度末までに15回の特別展を開催してきました。特別展では、展示資料の図版や解説論文やコラムなどを掲載した展示図録を発行しています。展示図録は、展示会のイメージに合わせて装丁やデザインに趣向を凝らしたもので、わかりで、眺めるだけでもお楽しみいただけます。見逃した展示会、図録を買いたい、展示会場を振り返ってみませんか。展示終了後も完売の場合を除いて購入が可能です。当館ミュージアムショップのほか、通信販売でもご購入いただけますので、お気軽にお問い合わせください。

- a「鷗外と画家原田直次郎と文学と美術の交響」  
2013年9月13日～11月24日  
A4判/60頁/840円(税込)  
デザイン：青木康子(GANGATA), 宇留間能力(宇留間デザイン室)  
第1章 原田直次郎との出会い「ミュンヘンでの日々」第2章 鷗外と画家原田直次郎と文学と美術の交響」第3章 原田直次郎との別れ」第4章 原田直次郎記念会と鷗外の美術活動とともに」第5章 原田を継ぐ鷗外の美術活動、原田の弟子たち」  
大塚美保、新関公子、山崎一類
- b「暁の劇場―鷗外が試みた、或る演劇」  
2014年4月26日～6月22日  
A4判/64頁/860円(税込)  
デザイン：Q  
玉置尚浦嶋/日蓮聖人辻説法/仮面/ジョン・ガブリエル・ホルクマン/静/生田川/寂しき人々/フアウスト/マクベス/女がた/ノラ(人形の家)/曾我兄弟  
ペアーテ・ヴォンデ、金子幸代、神山彰、山崎一類

- c「流行をつくる―三越と鷗外」  
2014年9月13日～11月24日  
A4判/56頁/860円(税込) ※表紙2種  
デザイン：平林奈緒美、星野久美子  
第1章 明治のお買いもの第2章 流行をつくる第3章 「三越と鷗外」  
西山純子、藤木直実、宮内淳子、和田博文
- d「谷根千」寄り道「文学散歩」  
2015年4月24日～7月12日  
A4判/58頁/860円(税込)  
デザイン：濱祐斗(デザイン事務所)  
谷中/根津/千駄木  
金井景子、倉本幸弘、出口智之、中島国彦、森まゆみ、山崎一類
- e「ドクトル・リントロウ―医学者としての鷗外」  
2015年10月3日～12月6日  
A4判/64頁/860円(税込)  
デザイン：杉山さゆり  
第1章 鷗外の学び/第2章 林太郎の取り組み/第3章 鷗外における医学と文学  
一柳廣孝、加賀乙彦、倉本幸弘、小泉浩一郎、酒井シツ、坂井建雄、澤井直、清田文武、高橋正雄、武智秀夫、永井良三、山崎一類
- f「私かわたしであること」  
森家の女性たち 喜美子、志げ、茉莉、杏奴  
2016年4月9日～6月26日  
A4判/58頁/860円(税込)  
デザイン：溝端貢(株式会社Karuga), 小森喜美子、森志げ、森茉莉/小堀杏奴、太田治子、大塚美保、金井景子、小島千加子、藤木直実、山崎一類
- g「文して恋しく懐かしき君に」  
鷗外「即興詩人の10年」  
2016年10月1日～12月4日  
A4判/64頁/860円(税込)  
デザイン：新保慶太(新保美沙子(Snobsn))  
第1章 旅のはじまり「観潮楼から日清戦争前夜まで」第2章 旅の中断と再開「日清戦争帰国後から小倉赴任まで」第3章 旅のおわり「小倉での生活、そして帰京」  
今川英子、加賀乙彦、小林幸夫、酒井敏、須田喜代次、松木博
- h「鷗外の庭」に咲く草花  
牧野富太郎の植物図とともに」  
2017年4月8日～7月2日  
A4判/58頁/860円(税込)  
デザイン：溝端貢(株式会社Karuga)

- i「明治文壇観測」  
鷗外と慶応3年生まれの人々たち  
2017年10月7日～2018年1月8日  
A4判/67頁/860円(税込)  
デザイン：杉山さゆり  
第1章 「めざまし草」前史―日本近代文学の創世期/第2章 「めざまし草」の時代―明治29年～明治35年/第3章 「めざまし草」以後―文壇の転換  
加賀乙彦、神山彰、出口智之、中島国彦、森まゆみ、山崎一類、山田有策
- j「鷗外と旅する日本」  
2018年4月7日～7月1日  
A4判/56頁/860円(税込)  
デザイン：濱祐斗(デザイン事務所)  
北海道・東北・関東中部/近畿・中国・四国/九州  
老川慶喜、松木博、山崎一類
- k「鷗外のうた日記」詩歌にうたった日々を編む  
2018年10月6日～2019年1月14日  
A4判/62頁/860円(税込)  
デザイン：溝端貢(株式会社Karuga)  
第1章 うた日記の世界/第2章 詩歌にうたった日々/第3章 うた日記を編む/歌人 岡井隆と森鷗外  
大塚美保、今野寿美、酒井敏、須田喜代次、山崎一類
- l「葉、晶子、らいてう―鷗外と女性文学者たち」  
2019年4月6日～6月30日  
A4判/56頁/860円(税込)  
デザイン：北野亜弓(Calamari)、関口りょう子  
第1章 樋口一葉/第2章 与謝野晶子/第3章 平塚らいてう  
岩淵宏子、尾形明子、三枝昂之、出口智之
- m「荷風生誕140年・没後60年記念」  
永井荷風と鷗外  
2019年10月12日～2020年1月13日  
A4判/58頁/880円(税込)  
デザイン：関由明  
(ミスター・ユニバース株式会社)  
その一はじめての出会い/その二 海外での体験/その三 荷風と鷗外の「三田文学」/その四 鷗外を再読する/その五 鷗外への敬慕  
川島幸希、多田蔵人、中島国彦、南明日香、山崎一類

# 2020年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

**10月**

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**11月**

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

**12月**

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

**1月**

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

**2月**

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

**3月**

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

特別展「森家の歳時記——鷗外と子どもたちが綴った時々の暮らし」  
8月8日(土)～11月29日(日)

コレクション展「手紙が語る鷗外像」(仮称)  
パート1：12月4日(金)～2021年1月24日(日)  
パート2：2021年1月27日(水)～3月28日(日)

● 休館日

開館情報は予告なく変更になる場合があります。  
詳しくは当館までお問い合わせください。

## 編集後記

本誌冒頭でもお伝えしました通り、当館では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2ヶ月以上の臨時休館を行いました。また、本誌「文京区立森鷗外記念館NEWS」につきましては、No. 31、32合併号としての刊行となりました。

6月1日の開館再開以降もサービスの一部休止や変更せざるを得ない箇所があり、ご来館の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。そんな最中でも、開館や展覧会開幕を心待ちにしてください。そんな方や、実際に足を運んでくださった方が多くいらっしゃったことに、職員も大変励まされました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日々状況が変わる中「新しい生活様式」が叫ばれ、人と人との間隔(ソーシャルディスタンス)を保たねばならず、文学館の在り方や楽しみ方もこれまでと同じようにはいかないかもしれません。引き続きご不便をおかけいたしますが、展覧会やイベントなどの最新情報につきましては当館HP等でご確認の上、ご来館いただければ幸いです。

## 交通案内

### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 南口 徒歩15分

### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
  - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
  - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等



ogai 文京区立 森鷗外記念館  
Mori Ogai Memorial Museum